

---

# いとおいしいほどに...

へたれ向日葵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いとおいしいほぶこ...

### 【コード】

N1388G

### 【作者名】

へたれ向日葵

### 【あらすじ】

レイマリアのお話恋愛というかセンチメンタルというか

いとおいしいほどに… 作：幻竜

暇があれば、箒に乗って空を飛び、あいつの場所に行っていた  
アリスの家もいいけど、違うし、紅魔館の図書館でもない  
山の麓に立っている神社だった  
真つ赤な鳥居をくぐり抜け、箒を持って塵や枯れ葉を掃く少女の前に降り立った

「最近良く来るわね。まあ、いいけど」

どこか素っ気無くて、何故か距離を置いているように感じてしまう  
のがちよつと辛い

「おう、また来たぜ」

笑顔で返すのは毎日で、心が痛いのも毎日だ

「お茶、飲むわよね。いつものようにそこらへんで待ってて」

そういつて、霊夢は奥へと行ってしまう

私はいつものように縁際に座り、足をぷらぷらと空で泳がせて待つ  
ちらちらと霊夢の方を見ては、消えてしまったのではないだろうか  
と心配になってしまつたのもいつもの事だった

やがて、彼女はお茶と煎餅を載せたお盆を持ってやってくる

「はい、魔理沙」 「おう、ありがとな」

私は、渡された湯のみを受け取り、それを啜る

横目で隣を見れば、霊夢もお茶を啜っていた

さりげない一つ一つの動作さえもが自分の中を狂わせて、自分が自  
分で無いような気がしてくる

「…どうしたの、魔理沙。私の顔になんかついてる？」

気がついたら、眼と眼が合つてて、湯のみを慌てて口から離れた

「な、何もついてないぜ。そうだ…なあ、霊夢」

「ん、なあに、魔理沙」

この際、勇気を振り絞って言ってしまったおうと決意した  
そう、勇気を振り絞って…勇気を…

「わ、私な、変かもしれない、っていうか変だとは思っただけだよ」  
「何よ、はっきり言いなさい」

「いつもお前の事で頭も胸もいっぱいなんだ。だから、その…」  
「なに？」

解ってるくせに聞く意地悪な霊夢だって、好きだった

「その…、…きだぜ」

「何って言ったの？聞こえないわ」

「霊夢が…好きなんだぜ」

言った はつきりと、霊夢の眼を見ながら言った

「…でも、私は先代達がやってきたように、いつかは後継者を作るために男を作らなければならぬわ」

「そんな事はわかりきってる！！だけど…霊夢の事が好きで…いと  
おしくてたまらないんだ…」

「好きなだけじゃ越えられない壁だってあるわ」

「好きなんてもんじゃない！！…あいしてるぜ。それに、そんな壁  
なんて私はどんな手を使ってでも越えて見せる…だから…」

私は目を瞑りながら下向いて、必死になってた、その時だった

包み込まれるような感覚が身に感じた為目を開けば、霊夢の顔が眼  
前にあった

「意地悪してごめんなさい、魔理沙。私の事、嫌いにならなかつた  
かしら」

「だ、誰が嫌いになるかよ。私は…私は…」

「今度は私の番ね。魔理沙、愛してるわ」

「っ！？」

いつだって霊夢は突然で、どこか卑怯だった

私だって卑怯とか言われるけど、それとは違った、何かがあった

「怖かった。いつかは私も自分の子を産まなきゃならない。だから、  
そのせいで、勇気がなかった。だけど魔理沙、あなたはそれでも

愛してくれるって、壁を乗り越えてくれるって言った。だから私は…嬉しかった…」

涙を流す霊夢を見て、私はぎゅっと抱いた

「心配させてすまない…。霊夢、お前は心配しないでいい男の人を探して、元気な子を産んでくれよな」

「うん…うん…」

霊夢は、私の胸の中で泣いた

「…あやや、神社に誰もいないなんて、何処かに出かけてるんじゃないかな」

空から神社を見て、何もいなかったため諦めてどこかへと飛んでいった

何故見えなかったって？

きっと、悪戯好きな妖精達の仕業でしょう…

はいどうも、幻竜です

今回は魔理沙と霊夢の恋愛というかセンチメンタルというか…

もうどっちも可愛すぎてたまらない

最後の妖精達の仕業って誰の事かわかりますか？

まあ、解らない人がいてはあれなので一応具体的な名前をあげましょうかね

三月精の三人、サニーミルク、スターサファイア、ルナチャイルドの3人ですね

能力は、右から順に、光を屈折させる程度、生き物の動きを補足する、回りの音を消す程度ですね

見えなくなっていたのは、サニーの能力で光を屈折させて見えなくさせていたわけです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1388g/>

---

いとおいしいほどに...

2010年10月29日08時23分発行